

第2回 水木しげる記念館再整備基本構想・基本計画検討委員会

日時：令和3年11月29日（月）15：00～

場所：境港商工会議所3階大会議室

（※一部オンライン）

《 次 第 》

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 説明事項
- 4 検討事項
 - ①基本理念等の振り返り
 - ②事業活動
 - ③諸室・スペース
 - ④管理運営の考え方
- 5 その他
- 6 閉会

水木しげる記念館 基本構想・基本計画 第2回検討委員会

★ 議論のポイント

- ・ 再整備における新たな理念・方向性の振り返り
- ・ 本施設での各種事業活動の検討
- ・ 必要な諸室・スペース（建築・展示）の検討
- ・ 管理運営の考え方

本資料は検討途中の素案です。
本検討委員会でのご意見を取り入れ、基本構想・基本計画をまとめていきます。
忌憚のないご意見をお寄せください。

0. 第1回検討委員会 意見要旨

| 発言者 | コンセプト・方向性について | 資料保存・展示について | 活動・連携について | その他 |
|---------------------------------------|---|---|---|---|
| 古橋副委員長 (一般社団法人境港観光協会 事務局長) | ● 境港市内にとどまらず圏域との連携を進め、境港を拠点として圏域の観光振興につながるランドマークとなる施設を目指したい。 | ● 資料の収集保存や展示替えも強化していきたい。 | ● 「水木しげるフィールド」の考え方は良いと思う。施設だけでなく街全体で、先生が描いた世界観を体感する体験につながると良い。 | |
| 柏木委員 (水木しげるロード振興会 会長) | | ● 今後の環境変化によって収蔵品が傷まない環境整備が必要。 ● より滞在時間を長くするために、例えば、デジタルコンテンツで漫画を読むことができるなど、親子3世代で一緒に見て楽しみ、会話が弾むような環境整備をしてほしい。 | ● 学芸員が不在であることが現状の課題。コアなファンへの対応や、子供たちの自由研究への対応、魅力ある展示づくり、環境整備のためには、プロの視点が必要。運営を支えるプロを育成する視点を含めた基本構想としてほしい。 | |
| 山田委員 (境港市自治連合会 副会長) | ● 地域振興における課題は、カフェなどの地域住民が集えるスペースが少ない点。市民交流の場としての方向性としてほしい。 | | ● 記念館の近くには、子供たちの学習の場としての可能性がある境水道や島根半島がある。これらと一体化するような記念館としてほしい。 | |
| 庄司委員 (境港商工会議所 事務局長) | ● 境港商工会議所も2006年に創立100年を迎えた際、「これまでの100年 これからの100年」をテーマに掲げており、今回の基本理念案に共感を持った。 ● 5つの事業計画について、各項目が融合するような形になると非常に良い。 | | | ● 休館期間中の取り組みについても、本検討委員会の中で議論する必要がある。 ● 先進事例にある、足立美術館、小泉八雲記念館、呉市海事歴史科学館に行ったことがある。どの施設も整備が非常に整っている印象であり、このような施設を目指していけると良い。 |
| 赤石委員 (一般社団法人境港青年会議所 理事長) | ● 記念館の在り方検討委員会の提言内容がしっかり落とし込まれている印象。 | ● 境港の子供たちは「妖怪学」を学んでいるが、その学習のために記念館が活用されていない。例えばプロジェクトマップ等、子供たちが楽しめる工夫を取り入れてほしい。 | | ● 災害時には市民の避難場所にもなる防災拠点としての建築の在り方を検討してほしい。 |
| 景委員 (一般社団法人境港水産振興協会 経理担当係長) | | ● 山陰地方は湿気が多いため、原画の保存環境には留意が必要。小さい子供には難しい展示が多い。解説を読ませるだけでなく、音声を活用するなど、妖怪に関する解説が少なく、小さい子供にもわかりやすく伝える工夫が必要。 ● 展示スペースが狭く、感染症予防の観点では密に感じられた。団体客が利用できるスペースが不足していた。 ● 現在のアニメ作品は水木先生の作風と異なる。今・昔の絵の違いを比較して見せてはどうか。 | ● 市場には、夏休みの宿題や社会科見学のために訪れる方が多い。記念館・ロード・港がつながるような見学コースができると良い。 | |
| 渡邊委員 (境港市小学校PTA連合会 渡小学校PTA副会長) | ● 水木先生の世界観のもとには、日本人が大切にしてきた温故知新の価値観がある。「新しい出会い」だけではなく、古さや懐かしさの観点もコンセプトに取り入れてはどうか。 | | | |
| 原口委員 (株式会社水木プロダクション 代表取締役) | ● 現状の記念館は全国的に見ても集客力のある施設。一方で、ロードを訪れる人のうち、記念館へ来館する人は約1割。「一度来館しているから入らなくてよい」と考える方が多いためである。まずは、市民の方が繰り返し訪れたくなる施設を目指す必要があると考える。 | ● 現在の運営体制では、長期にわたって継続的に勤務する職員がいない。原画を保存・展示するためには、専任の学芸員が必要となる。その他のスタッフについても、長く勤務する中で作品に関する知識を深めていただけるような、安定した雇用体制にしてほしい。 | ● 基本方針を検討するうえで、「2. 活動の方針」「3. 連携の方針」は、記念館を中核とした連携の形や、地域の各組織でなにができるかを検討していく必要がある。 | |
| 森田委員 (鳥取県交流人口拡大本部観光交流局まんが王国官房 官房長) | | ● 水木先生の戦争体験や平和教育の要素を取り入れると、修学旅行で立ち寄っていただける等、持続的な集客につながる施設になると考える。 ● この先100年の施設づくりを考えると、容易に更新できる展示づくりの工夫が必要。 | ● 作品世界を実際に味わえる土地として、施設の中で再現するのではなく、市内を周遊していただけるような工夫が大切。 | |
| 尾崎委員 (鳥取県立博物館 館長) | | ● 今後、原画を収蔵・展示する場合、保存環境の調整や展示替えにおいて、専門知識を有する学芸員が必要となる。 | | |
| 細田委員長 (国立大学法人島根大学教授) | ● 水木しげる記念館は、美術館や博物館というよりはテーマパークに近い性格があると考えられ、ミュージアムの機能とテーマパーク性のバランスを検討する必要がある。先進事例として、テーマパーク性のある施設についても調べてほしい。 | ● ミュージアム機能に比重を置く場合、リピーター獲得につながるためには、定期的な企画展や常設展示の展示替え等、検討が必要となる。 | | |
| ◆ 会議終了後の意見等 | | | | |
| 山田委員 (境港市自治連合会 副会長) | | ● 孫を連れて記念館に行った際、トリックアートを大変喜んだ。同様に体験できるものを取り入れた方が良い。 | | |
| 細田委員長 (国立大学法人 島根大学教授) | ● 4つのゾーニング(幼児期・学童期・思春期/青年期・壮年期/老年期)と、子どもから大人まで最低4回はリピートしたくなるような魅力的なものになる施設づくりが求められる。 | ● 季節ごとの庭園の彩りは足を運ばせる魅力があり、水木先生や奥さまが好きだったり、思い出の草花を中庭や前庭に植えることで、とっとり花回廊や由志園などのつながりも生まれるのでは。 | | |
| 尾崎委員 (鳥取県立博物館 館長) | ● 原画、ないしそれに準じる、後世に伝えていくべき資料の収蔵、展示となれば、施設や人員配置にかなりの責任と負担が発生するため、必ずしも原画を収集し、学芸員を配置する方向に進む必要はないと考える。 | | | |

1. 基本理念（目指す施設像）

時代の節目である生誕100周年の今、これからの100年も幸福な出会いが訪れる施設づくりに向けて

水木しげる先生が歩んだ **100年** を継承し

次の **100年** へ想いをつなげる **文化観光創造拠点**



2. 基本方針

1

施設
の方針

次の100年に水木ワールドを守り伝えるために

**「ホンモノ」を扱う記念館へ
施設機能を強化**

- ・ 貴重な資料を「守る」保管環境の整備
- ・ 資料の価値を「魅せる」展示の整備

2

活動
の方針

次の100年も人々に愛され続けるために

**水木しげるロードと一体となる
開かれた場と活動づくり**

- ・ ロードとつながり、さらに活性化。
多様な来訪者が集まり交流できる場
- ・ 施設周辺を「水木しげるフィールド」へ

3

連携
の方針

次の100年もまちに賑わいが続くために

**多様な主体を結び、
発展しつづける連携づくり**

- ・ 関係団体様、地域の人々とともに
発展していく多彩な活動
- ・ 市域・圏域へ経済効果を広げる連携づくり

3. 基本コンセプト

行き交う、つながる、混ざり合う

「境」からはじまる新しい出会い

古くから海と陸の「境」として物質・文化の流入基地として栄え、新しいものを受け入れる人々の気質も相まって、唯一無二のまちへと進化してきた境港。

そして、人間界と霊界の「境」、実体験と創作の「境」、生と死の「境」、**古来からの妖怪文化と新たな漫画表現の「境」**。

水木しげる先生は様々な「境」から独自の世界観を創造してきました。

すぐ隣り合わせにある世界が行き交い、つながり、混ざり合う。

かつての日本の姿を思い出させる懐かしさが残るこのまちで、今まで見えなかったものに出会う場所としての「境」を施設の基本コンセプトとします。

4. 事業計画の検討

A 【守る】資料保管事業

水木先生の魅力を発信するための幅広い分野の資料を保管します。

第1回検討委員会での意見

収集保存、展示替えの強化が必要

原画を扱う場合、学芸員の配置・収蔵庫等の環境整備が必要

責任と負担が大きいため、必ずしも原画を収集保存する必要はない

事業活動（案）

| 事業活動（案） | 活動内容（案） |
|---------|--|
| ● 資料保管 | 資料特性に応じた適切な保管環境を整え、貴重な資料を守ります。 ※原画資料の取り扱いについては要協議 |
| ● アーカイブ | 資料アーカイブを構築し、収蔵資料がより多くの人々に活用されるための取り組みを行います。 |
| | |
| | |
| | |
| | |

B 【魅せる】展示・公開事業

「水木しげる先生」を伝える唯一の記念館として、より多角的な視点から水木先生の魅力を伝える展示を計画します。

第1回検討委員会での意見

多世代が楽しめる展示

ミュージアム性とテーマパーク性の比重

容易に更新できる設え

デジタル技術の活用

リピーター獲得のための企画展示の検討

修学旅行・団体利用対応
感染症対応

事業活動（案）

| 事業活動（案） | 活動内容（案） |
|---------|--|
| ● 常設展示 | 水木先生の人生をたどり、世界観や作品、生き方等から「水木しげる先生」を伝える常設展示室を整備します。 |
| ● 企画展示 | さまざまな資料に対応する企画展示室を整備し、多彩なテーマで水木先生の魅力を伝える企画展示を開催します。 |
| ● 原画展示 | 原画資料に特化した展示室を整備し、貴重な原画資料等を積極的に公開します。 ※原画資料の取り扱いについては要協議 |
| | |
| | |
| | |

4. 事業計画の検討

C 【誘う】 観光振興事業

境港市の文化観光創造拠点として、地域の魅力を向上し、地域の経済活性化に貢献するための取り組みを展開します。

第1回検討委員会での意見

地域の観光拠点となる
ランドマーク

街全体で作品世界を
味わえる取り組みを展開



事業活動（案）

| 事業活動（案） | 活動内容（案） |
|-----------|--|
| ● 周遊促進 | 聖地を巡る周遊ツアーや夜間イベントの実施、観光情報発信等を行い、周遊観光の促進を図ります。 |
| ● ショップ | ロードや市内の店舗が出店できるブースやワゴンを準備し、地域店舗のPRに繋がります。 ※ショップのあり方については要協議 |
| ● 広報活動 | SNSを活用した話題づくり等、効果的・効率的な広報活動を展開し、利用促進を図ります。 |
| ● サテライト展示 | ロードの空き店舗や空き地・路地裏等を活用し、記念館の資料や情報の一部を出張展示します。 |
| | |
| | |

D 【交わる】 創造・交流事業

幅広いターゲットに向けて、楽しみや学びが広がる場や活動を充実させ、より集客力を高めるための事業を展開します。

第1回検討委員会での意見

何度も訪れたい施設
(リピーターの獲得が課題)

カフェなどの市民交流の場



事業活動（案）

| 事業活動（案） | 活動内容（案） |
|-------------------|---|
| ● 交流・体験 スペース運営 | 多様な機能をもった交流・体験スペースを配置し、ワークショップ運営やライブラリー整備等を行い、日常的な利用を促します。 |
| ● 各種イベントの 企画運営 | 親子向け、学校団体向け、外国人向け、オンライン講座など、多様なニーズに応えるプログラムを企画・実施します。 ※連携団体との関わり方等については要協議 |
| ● 人材育成 | 講座・ワークショップやガイドツアー等の担い手となる市民の募集・育成を行います。 ※連携団体との関わり方等については要協議 |
| | |
| | |
| | |

4. 事業計画の検討

E

【結ぶ】連携・協働事業

市内や市外の様々な施設・団体・企業等との結びつきを強化し、更なる持続発展を目指します。

第1回検討委員会での意見

市域だけでなく
圏域との連携をひろげる

記念館を中核とした、各組織との
連携・活動のかたちについて検討が必要



事業活動（案）

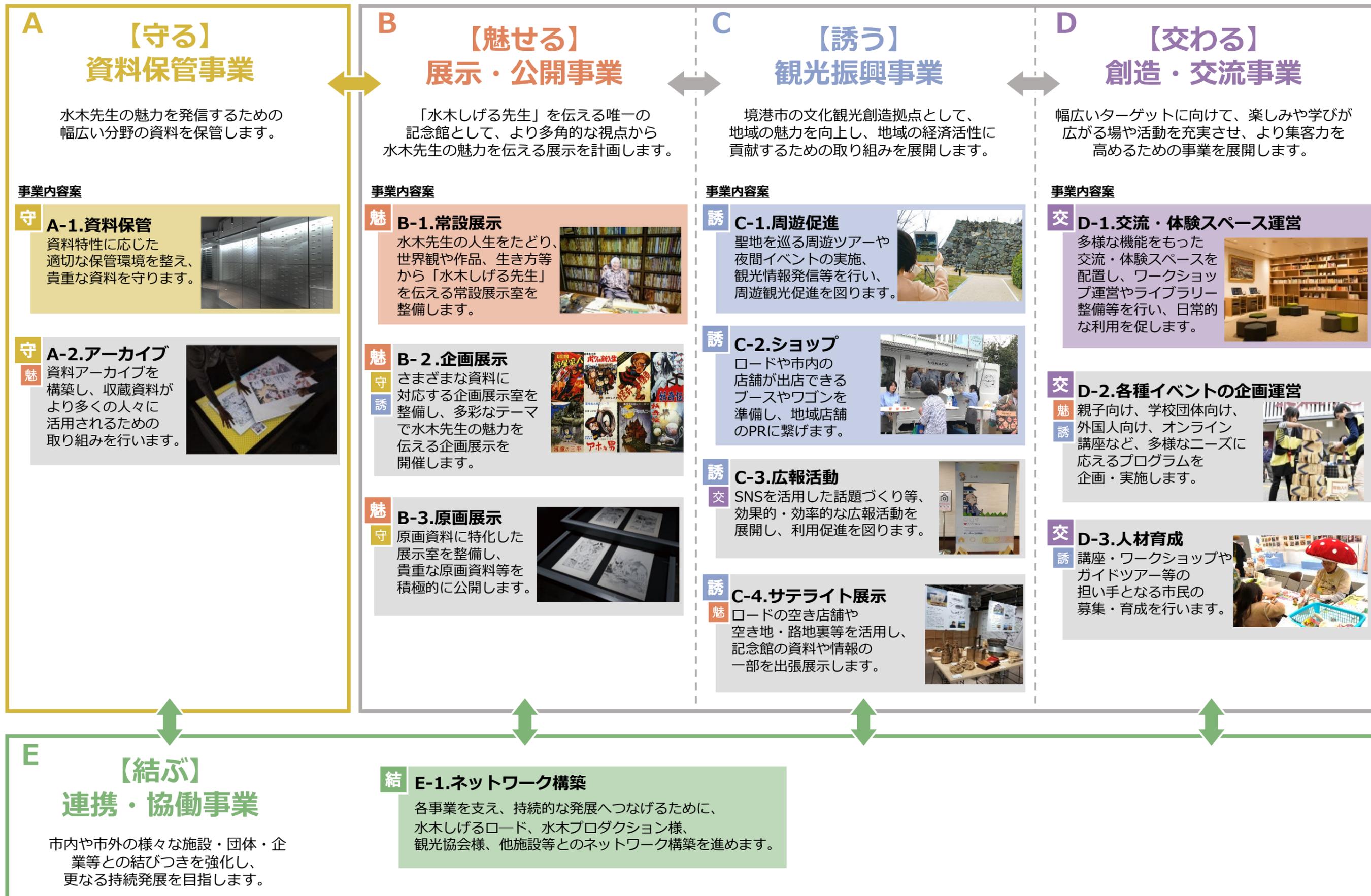
| 事業活動（案） | 活動内容（案） |
|------------|--|
| ● ネットワーク構築 | 各事業を支え、持続的な発展へつなげるために、水木しげるロード、水木プロダクション様、観光協会様、他施設等とのネットワーク構築を進めます。 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

4. 事業計画の検討

- ・施設の基本コンセプトの実現に向けて、5つの事業を計画します。
- ・各事業方針が融合することで、複数の方向性から多角的に魅力ある活動を展開します。

アイコンは、該当する主な事業方針を示します

- 守**【守る】資料保管
- 交**【交わる】創造・交流
- 魅**【魅せる】展示・公開
- 結**【結ぶ】連携・協働
- 誘**【誘う】観光振興



5. 必要な諸室・スペース（建築・展示）の検討

諸室構成と諸室連関図について

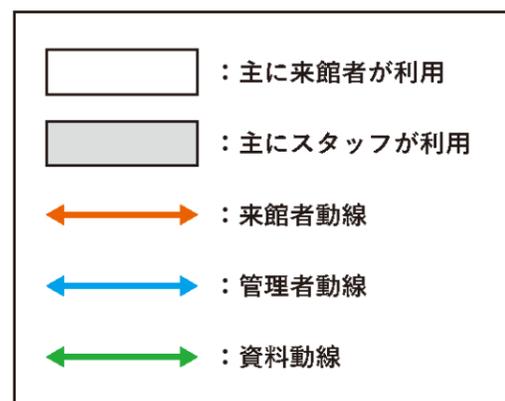
【諸室連関図のポイント(案)】

- Point 1 地域にひらかれた施設づくり**
水木しげるロードから見える入口に、老若男女が楽しめる広場を整備します。また、施設内の交流を促す機能を広場と隣接させ、屋内外のにぎわいを一体化することで観光客・地域住民が利用しやすい開かれた施設とします。
- Point 2 来館者動線と管理・資料動線の仕分け**
資料動線をしっかり確保することで搬出時に来館者の動線と重ならないように諸室配置します。
- Point 3 多様な来館者の受入れ**
個人の来館者でなく、修学旅行の学生などの団体利用の対応をスムーズにできるよう大人数の受け入れ場所として多目的スペースを配置し、遠方からの観光客などに周辺観光促進をはかります。
- Point 4 展示室のリニューアル**
既存の施設から常設展示室のあり方を継承し、水木先生について多角的なテーマで充実した展示のリニューアルをおこないます。
- Point 5 貴重な資料の管理**
作品や資料を守る収蔵庫を2階に計画し、原画保存の観点から別室で原画展示室と企画展示室を設け、それぞれの展示に適した環境を整備します。
(リニューアル後の原画の収集、展示については要協議)

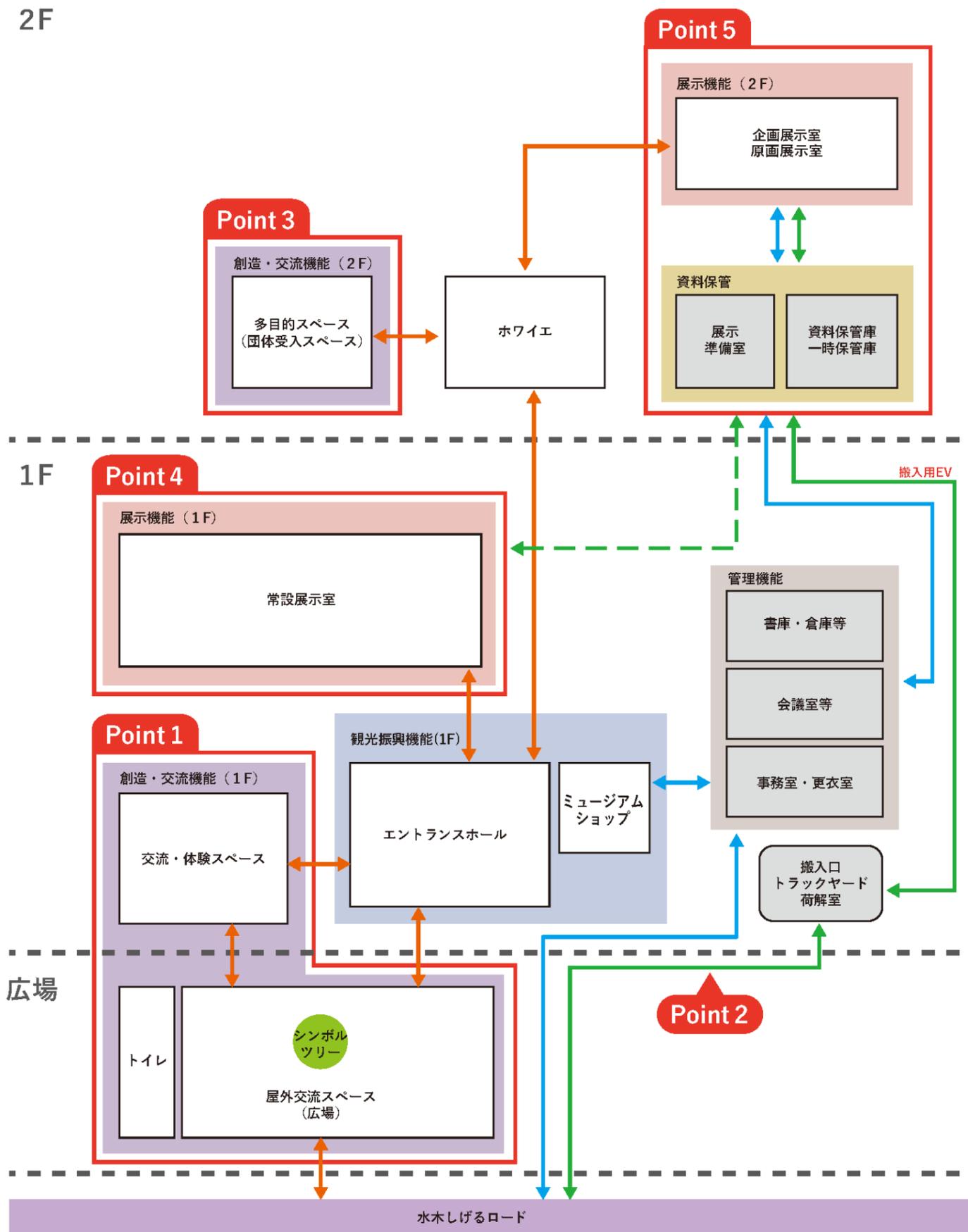
【諸室構成表(案)】

| 事業を支える施設機能 | 諸室名 |
|------------|-------------------|
| 資料保管 | 資料保管庫・一時保管庫 |
| | 展示準備室 |
| 展示・公開 | 常設展示室 |
| | 企画展示室 |
| | 原画展示室 |
| 観光振興 | エントランスホール |
| | ミュージアムショップ |
| 創造・交流 | 交流・体験スペース |
| | 屋外交流スペース(広場) |
| | 多目的スペース(団体受入スペース) |
| 連携・協働 | 会議室等 |
| | 事務室・更衣室 |
| 管理運営 | 事務室・更衣室 |
| | 書庫・倉庫等 |

【右図凡例】



2F



機能連関図(案)

6. 管理運営の考え方

現状の運営状況と第1回検討委員会での意見

現状の運営状況

開館状況

- ・開館時間：9:30～17:00
- ・休館日：年中無休
- ・入館料：
 - 一般 700円
 - 中高生 500円
 - 小学生 300円
 - 障がいのある方・介護者 300円

運営体制

直営

- ・館長（非常勤）
- ・職員（1名）
- ・事務員（3名）
- ・案内員（11名）
- ・着ぐるみ隊（6名）
- ・専門知識を有する人材が配置できず、資料の管理や、展示替えに課題がある

第1回検討委員会での意見

何度も訪れたいくなる施設

圏域の観光拠点となる施設

魅力的な展示づくり
資料のための環境整備記念館を中核とした
地域との連携・活動の検討コアなファンや子供たちの学習に
対応できる専門知識を有する職員原画を保管・展示するためには
学芸員の配置が必要

長期的な安定した雇用体制

運営を支える人材育成の視点

基本方針

以下の方針をもとに、水木先生が残した価値を継承し、にぎわいを生み続けるための管理運営のあり方を検討します。

1 持続的な事業活動のための
運営体制づくり

- 貴重な資料への適切な管理や展示、地域と連携した活動展開への対応など、持続的な事業活動に則した運営体制づくりを検討します。

2 観光利用と地域利用を両立する運営

- 何度も訪れたいくなる施設とリピーター獲得を目指し、観光利用と地域利用双方を重視した運営を行います。
- 観光利用では、より満足度の高いサービスを提供できるよう、現状の運営を拡張・発展させ、集客力をさらに高める運営を行います。
- 地域利用では、市民が気軽に普段使いできるよう、親しみやすくきめ細かな運営を行います。

3 多様な連携先とのネットワーク構築

- 市域、圏域をはじめとする多様な団体等とこれまで培ってきた関係を維持、発展させ展開するなど、より活発な連携を図ります。
- 将来的な運営を支える人材の発掘・育成を視野に入れた連携を図ります。

4 誰もが利用しやすい
開館時間、入館料等の設定

- 現状維持を基本として、多くの人々が利用しやすいよう、利用者の立場に立った開館時間や入館料等を検討し、利用者のニーズと合わせて柔軟な運営を検討します。

5 継続的な活動や運営ノウハウが
維持できる運営方式

- サービスの維持向上のため、スタッフが中長期にわたり活動でき、運営ノウハウが維持・継続されることに留意して運営方式を検討します。